

文章理解 2026 年度松商短期大学部 学校推薦型選抜前期（特待生） 出題の意図

第1問は和泉悠の論説文『悪口ってなんだろう』から、第2問は池澤夏樹『母なる自然のおっぱい』所収「ぼくらの中の動物たち」から出題した。共に評論文であり、2つの文章から論理的に読み解く力を最大限測ろうとした構成である。

第1問は、「悪口はなぜ悪いのか」という素朴な問いから出発し、必要条件・十分条件という論理的な枠組みを用いて悪口の本質を考察した論説文である。出題にあたっては、二重傍線部の漢字の読み書きに加え、論の前提と帰結を結ぶ接続語や空欄補充を通じて、論理展開を正確にたどる力を確認している。また、トーン・ポリシングの説明や結論部の傍線部設問では、具体例と抽象的主張との往復を踏まえた読解力を問うている。

第2問の池澤夏樹の文章は、動物園のオランウータンの逸話を起点に、知力という「バイパス経由の進化」を遂げたホモ・サピエンスの孤独と不安を論じた随想的評論である。出題にあたっては、波線部の語意把握、空欄補充による文脈把握、傍線部B〈皮肉な結論〉やF〈隠しても隠しきれない高所恐怖症〉といった比喩的表現の理解を問い、結びの〈この矛盾〉の含意まで読み解く力を確認している。

筆記試験 2026 年度松本大学松商短期大学部 外国人留学生選抜前期 出題の意図

信濃毎日新聞に掲載された「国際観光旅客税（出国税）」の大幅引き上げに関する二つの記事を題材とし、現代日本社会が直面するオーバーツーリズム（観光公害）の問題を読み解かせる出題とした。提示された二つの文章を正確に読み取り、要因の抽出と要約を経て、自らの考えを論述させる構成である。日本語による文章理解力に加え、社会的な事象を踏まえて論理的に意見を組み立てる力を見ることをねらいとした。

文章 1・文章 2 をもとに、三つの質問に答えさせる構成とした。質問 1 は、観光公害への対策が「ない」と答えた地域が「ある」の三倍に上る理由について、10 字以内で二つの要因を抽出させ、本文の論旨を簡潔に整理する読解力と要約力を確認している。質問 2 は、出国税引き上げが国内の海外旅行需要に及ぼす影響を 10 字以内でまとめさせ、本文に示された経済的観点を的確に捉える力を問うた。また、質問 3 では、有効と考えられる対策を 500 字以内で論述させ、財源活用や交通混雑緩和など本文の論点を踏まえた具体策を組み立てる思考力と表現力を見ている。

三つの質問を通じて、新聞記事を題材とした読解・要約と、社会的課題に対する論述の双方を確認できる構成とした。短い字数制限の中で要点を取り出す技能と、500 字の論述で根拠を示しながら自分の意見を述べる技能の双方を備えているかを見ている。日本語運用能力にとどまらず、現代日本社会の動向を踏まえた課題解決に向けた発想を備えているかを問うことに主眼を置いた。